

ネブラスカの旅

株式会社 東京地図研究社 塚田 野野子

「アメリカ」と聞くと、ニューヨーク、サンフランシスコ、ロサンゼルスなどの大都市を思い浮かべる人が多いのではと思います。マンハッタンの摩天楼、私もアメリカのイメージは高い建物と物騒で怖いというイメージでした。しかし、1989年から1994年まで首都であるワシントンD.C.近郊に留学生として住み、ポトマック川やシェナンドー川が育む豊かな自然が身近にあることに驚きました。

アメリカをのんびりと味わいたい、そして車の移動が苦にならないければ、郊外や田舎に出かけてみてはいかがでしょうか。そんな例として、アメリカ大陸のほぼ真ん中にあるネブラスカ州の最大都市オマハ近郊に数年前に私がお出かけしたときのひとこまをご紹介します。ちなみにネブラスカ州は面積が約20万平方kmと日本の面積の半分強、人口は約170万人です。

さて、お出かけは当然、車を走らせます。アメリカ人にとって車は足であり、幌馬車の気分もあるようです。エコが叫ばれる昨今ですが、やっぱり大きい車が好きみたいです。



「ハマー」はやはり人気



Henry Doorly Zoo の globe fountain



globe の説明書

まずはアメリカ国内でも有数の動物園であるHenry Doorly Zooへ行きましょう。熱帯雨林を人工的に再現した「屋内ジャングル」や「砂漠ドーム」、「水族館」が有名ですが、地球儀を模したglobe fountain も人気です。

次はオマハから約20マイル南東にある戦略航空宇宙博物館（Strategic Air and Space Museum）へ。名前の通り、航空学・宇宙飛行の歴史、科学、技術に関する展示とともに研究施設ですが小中学生向けの巡検も多数あります。数十種類に及ぶさまざまな軍機やミサイル、そして宇宙船の展示は圧倒されます。



Strategic Air and Space Museum 入口



Museum の展示の一部



農園の入り口



ハロウィーン用のカボチャ



子豚のレースを見守る

常設展示の一つである「Doolittle's Tokyo Raiders」は第二次大戦時の東京空襲に関するコーナーは、アメリカ側の当時の視点や現在に至る見解を伺え、日本人として考えさせられます。

さて、一転、のんびりとした雰囲気に移りに行きましょう。ここはオマハ近郊のある個人（！）の農園で季節により開放とのことでした。広大な敷地の中に農場、牧場、足踏みカーレース場、子豚のレース場となんともどかな光景が広がります。

アメリカの都会から少し離れた所にこんな光景がそこそこにあります。機会があったら是非皆さんもいかがでしょうか？